

1. 調査報告概要表

作成日 平成21年10月26日

【認知症対応型共同生活介護用】

【評価実施概要】

事業所番号	2773400409
法人名	社会福祉法人 みささぎ会
事業所名	グループホームつどうホール
所在地	藤井寺市小山3丁目151番地の1 (電話) 072-953-0248

評価機関名	社会福祉法人 大阪府社会福祉協議会
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1番54号 大阪社会福祉指導センター内
訪問調査日	平成 21年 10月 1日

【情報提供票より】(平成 21年 9月 10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14年 11月 1日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人
職員数	9人	常勤 6人, 非常勤 3人, 常勤換算	8.5人

(2) 建物概要

建物構造	RC 造り		
	5階建ての	2階 ~	2階部分

(3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000円	その他の経費(月額)	11,000円
敷金	有 (円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	200円	昼食 450円
	夕食	350円	おやつ 100円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要 (平成 21年 9月 10日現在)

利用者人数	9名	男性 0名	女性 9名
要介護1	0名	要介護2	1名
要介護3	1名	要介護4	6名
要介護5	1名	要支援2	0名
年齢	平均 88.88歳	最低 79歳	最高 97歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医真会八尾総合病院、豊川病院、藤本病院、青山病院
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

永年藤井寺市内で活動されてきた社会福祉法人が平成14年に市内の津堂地区にも特養を開設する時に、地域の要望により「認知症高齢者グループホーム」を併設しました。地域の人々が「集う場」として地域活動に参加し、地域の人々と交流しています。周辺には田畑が拡がりホームからは田植えから稲刈りまで、季節の移り変わりが農作業を通じて良くわかり、利用者にとっては、昔なつかしい暮らしを思い出せて、やすらぎを得ることができています。道路を隔てた向かいの小学校の児童との交流があり、また登下校の姿をベランダから眺め元気な声を聞くことができ、子ども達から元気をもらっています。運動会や授業参観に訪校する一方、児童たちも日頃からホームに出入りし、交流を図ることができています。ホームのケアの基本方針は「掃除、洗濯、買い物等の日常生活を通じて利用者が『主体的』に生活できるよう、サービスを行うこと」とし、職員は利用者の思いをしっかりと聞くことを大切にケアをしています。母体法人が進めている「認知症予防自立支援プログラム」の学習活動に参加し、認知機能の維持や低下を遅らせることに努めて改善がみられています。今年5月からのインフルエンザ予防対策のため、学校の児童との交流や外出行事の中止など、例年より活動を制限していますが、そのために利用者のストレスが溜まらないよう職員は留意しています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連科目:外部4)
	外部評価結果については会議で検討し改善に取り組んでいます。災害用備蓄品についてホーム独自に準備する方向で検討しています。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員の意見をもとに計画作成担当者が作成しています。作成した自己評価票は事務室に閲覧用としておいています。しかし、自己評価票を職員全員に周知したという記録や、職員が回覧等で自己評価を確認したというサインは残していません。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 会議の構成メンバーには、利用者・利用者家族・市担当者・地域包括支援センター職員・地区長・地区福祉委員及び地元の小学校校長にも加わっていたについて検討しています。9月の会議では「利用者の無断外出、捜索のネットワーク作り」について家族や地域の方の理解と協力を要請しています。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 家族会を年2回開催した時や運営推進会議への参加の機会に意見を聴きサービスの向上に活かしています。日常的な家族の来訪時や電話対応などで、意見・要望を聴いて家族通信票に記録し、職員間では周知しています。寄せられた苦情については「苦情受付及び討議報告書」を作成し、改善に取り組んでいます。事務室前に意見箱を設置し、アンケート形式の用紙を用意して、訪問時に記入しやすい方法を探っています。
重点項目③	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 道路を隔てた小学校の児童との交流が日常的にあり、運動会に招待されたり、1年生の授業を参観し、給食を一緒に食べたりしています。6年生は利用者の似顔絵を描いて贈ります。散歩の途中で馴染みになった近隣住民と挨拶を交わし花や野菜をいただくことがあります。また、法人の夏祭りには地域住民が多く参加し、藤井寺市民音楽団や和太鼓の演奏も好評です。地元神社の秋祭りのふとん太鼓が訪れ、利用者は喜ばれ、地域住民も交え賑わいます。ボランティアの方に習字を学びます。

2. 調 査 報 告 書

(部分は重点項目です)

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	母体法人の理念として「お年寄りにいたわりの心を」を掲げ、ホーム独自の今年の基本目標には ①サービス意識の統一化 ②自立支援を重点においた介護計画の作成 ③スタッフの質の向上 ④家族との交流、地域との連携等を、掲げて利用者のサービスに努めています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は理念を共有し、基本目標達成のために「掃除、洗濯、買い物等の日常生活を通じて入居者が『主体的』に生活できるよう、サービスを行うこと」を基本方針として日々取り組んでいます。理念共有の為の研修を毎年3月に行っています。	○	ホームの事務室内に理念や方針・目標を職員が日常的に目にする場所に掲示することが求められます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
3	5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに務めている</p>	<p>道路を隔てた小学校の児童との交流が日常的にあり、運動会に招待されたり、1年生の授業を参観し、給食を一緒に食べたりします。6年生は利用者の似顔絵を描いて贈ります。高学年の体験学習では、各利用者の居室で対話を楽しんだり、歌を歌ったり、掃除も手伝います。散歩の途中で馴染みになった地域住民と挨拶を交わし、花や野菜をいただくことがあります。一例とし、今夏はいただいた「へちま」を調理して賞味しました。また、法人の夏祭りには地域住民が多く参加し、藤井寺市民音楽団の生演奏や地域の人たちによる和太鼓の演奏が好評です。地元神社の秋祭りにはふとん太鼓が訪れ、活気ある若者や子どもたちが打つ太鼓やかつぐみこしに利用者は喜ばれ、地域の住民も交え賑わいます。ボランティアの方から習字を学んでいます。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、職員は自己評価や外部評価の意義を理解しています。前回の外部評価結果については、会議で検討し改善に取り組んでいます。災害用備蓄品についてホーム独自に準備する方向で検討しています。自己評価については職員の意見をもとに計画作成担当者が作成しています。作成した最終の自己評価票は全職員が閲覧できるようファイルに掲示し周知しています。今後は職員の確認サインが望まれます。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、3～4ヶ月に1回開催しています。構成メンバーとして、利用者・利用者家族・地区長・地区福祉委員・地区小学校校長・市の担当課課長・地域包括支援センター職員から出席を得ています。行事報告と行事予定・感染症予防・認知症予防の取り組み等について検討しています。9月には「利用者の無断外出、搜索のネットワーク作り」について家族や地域の方の理解と協力を要請しています。	○	運営推進会議は規定通り会議の開催は2ヶ月に1回、概ね年に6回の開催が求められます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会づくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>最近では新型インフルエンザ予防対策に関する相談も含め、疑問点等とその都度市役所の担当課や地域包括支援センター等へ、電話や窓口に出向いて相談しています。事故報告書・外部評価結果についても届けています。市主催の介護保険事業所の集まりに参加し、情報を得てサービスの質の向上に活かしています。得た情報は職員に周知しています。介護相談員の訪問は月1回あります。今後はオンブズマン制度を採用する予定です。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族の来訪時には、職員が利用者の日々の様子を伝えていきます。健康状態の変化や緊急時には電話連絡を行っています。月1回、「日中の様子や活動内容、夜間での様子など」を書面に記載したものを見せ、家族の意見等を「家族様通信票」に記録し、家族・職員共々確認し周知しています。小口金銭管理については、個人金銭出納帳に記載し、出納状況について家族の了承、署名をもらっています。職員の異動時には家族にも紹介しています。法人の広報紙「みささぎ新聞」を年2回家族に送付し、ホームの様子等を報告しています。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常的な来訪時や電話対応などで、意見・要望を聴いて、家族通信票に記録し、職員間で周知しています。苦情については苦情受付及び討議報告書を作成し、職員は周知しています。家族会を年2回開催した時や運営推進会議へ参加の機会に意見を聴きサービスの向上に活かしています。利用者の誕生日や敬老会、納涼祭に家族を招待します。事務室前に意見箱を設けています。アンケート様式用の紙を置き、訪問時に記入しやすい方法をとっています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者と馴染みの関係作りを重視し、異動は最小限になるよう配慮しています。特養等の業務を経験した職員が異動することはありますが、法人内の転入出のため引継ぎ期間をとり、利用者や業務に馴染むよう配慮しています。転出職員も施設内で会えることを利用者へ説明し、安心してもらいます。家族には来訪時に紹介しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	「スタッフの質の向上」を今年の目標としており、職員は研修を受ける機会を多く持てるよう努めています。外部研修、法人内研修で「認知症」「感染症」「緊急時対応」等の研修は実施しています。新任職員はホームの業務をOJT (On the Job Training) により履修しています。今後は、受けた研修に関する報告書、資料等をホームでも独自に保管することが望まれます。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	「介護保険事業所連絡会」に加入し、情報交換を行っています。市内のグループホームの数は少なく、グループホーム独自の連絡会は開催していませんが、「大阪認知症高齢者グループホーム協議会」に加入し情報を得ています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前には本人と家族でホームを見学してもらいます。必要があれば再訪もあり、行事等にも招き、ホームの雰囲気馴染めるよう配慮しています。また、職員が自宅を訪問することもあります。同法人が実施しているデイサービスやショートステイの利用者がホームに入居される場合もあり、利用者や職員とある程度の人間関係ができてから入居できるよう努めています。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は利用者と共に過ごし、日々の関わりの中で利用者から学び、助け合うことを大切に、信頼関係を築いています。男性職員が調理を担当する時は気にかけて、手伝ってもらうことがあります。つつましく、始末しながら生活することを学び、さつまいもの茎を昔に習って食用にします。「彼岸の中日」など季節ごとの暦の見方・呼び方を教えてもらいます。職員は押し絵の得意な利用者から学び、一緒に作成しています。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で利用者の思いをしっかりと聴くことを大切に、希望を言葉や表情から職員が汲み取り、確認を行い、毎日の作業や介護計画に取り入れています。利用者の馴染みの習慣や興味・今の習慣や興味・得意なこと、苦手なもの等を記録し本人や家族から得た情報をホーム独自のアセスメントシートに記録しています。毎日の生活については、「日中及び夜間の様子や行ったアクティビティ」で個別に記録し、必要に応じてアセスメントシートに加えます。また、職員の申し送りノートに気付き、疑問、報告等を記入し情報を共有しています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居時には詳細なアセスメントを行い、利用者・家族の要望を反映した介護計画書を作成し、説明の上利用者及び家族等の署名を得ています。個別ファイルの見出しにわかりやすく綴じており、職員はいつでも見ることができます。しかし、職員全員が周知しているという署名等はない状況です。	○	作成された介護計画書は職員全員が周知している確認のサインが求められます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的には6ヶ月毎に計画の見直しを行っています。日々のケアの記録をもとに計画作成担当者はモニタリングを行い、サービス担当者会議のもと見直した計画を作成しています。計画の見直しには、利用者、家族の意見をもらい、職員全員で話し合い6ヶ月毎にアセスメントシートも更新しています。期間以内でも、退院後などに体調の変化に伴うケアの変更がある場合は、介護計画の見直しを行う場合もあります。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援（事業所及び法人関連事業の多機能性の活用）					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	緊急な受診や家族の都合がつかない場合には、職員が通院支援を行っています。小学生や中学生の体験学習の場としてホームへの訪問を受け入れています。来訪時には利用者の各居室に迎え入れ、個別に対話することで、交流が生まれます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援の協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に本人及び家族とかかりつけ医の選択について希望を聞いています。併設のつどうホール診療所の内科医・精神科医の受診を受けることができます。必要に応じて1週間に数回の往診も可能であり、家族からも安心を得ています。必要に応じて他科受診についても支援しています。受診時にはつどうホール診療所から診療情報提供書を発行しています。併設特養の看護師が利用者の体調、服用薬等を把握しており、利用者の状態の一覧表を作成してケアに繋げています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者が重度化した場合や、退去にあたっての条件を入居契約書に明記し、入居時に説明し了解を得ています。入居時に希望により特養への入所申請書も提出してもらった場合もあります。重度化した場合の対応については家族・主治医・看護師と話し合い、希望に添うような援助をしています。終末期ケアをホームで希望される場合は受け入れる方針があり、職員間で方針の共有を図っています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員一人ひとりが勉強会やミーティングの際、プライバシーを損なわない対応の徹底が図られています。日々の介護の場面でも利用者を尊重した対応、言葉遣いへの注意を心がけています。職員の入職時に秘密保持に関する誓約書を提出しています。個人記録やファイルは事務室に保管しています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームとして基本的な1日の流れを作り生活のリズムを整える目安にしています。利用者一人ひとりのペースを大切にしてみ守り、ゆっくり食事をされる方は急がすことなく支援しています。起床後毎朝特養の廊下まで出て散歩を兼ねてベランダのガーデニングを眺めにいくのを楽しみにしている方、毎朝自室でお祈りされる方、新聞を購読している方は自室でゆっくり読まれます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は3食ともホームで調理しています。食材の買出しには週2～3回、利用者と共に出かけます。お米とぎや野菜の下ごしらえ、味付け、盛り付け等できることを利用者と共に行います。菜園で採れた夏野菜が食卓にのぼることもあり、収穫したさつまいもの茎も皮むきを利用者と一緒に行い、戦後を思い出しながら食べることがあります。旬のものを選び管理栄養士の立てた献立から変更することもあります。職員も同じテーブルで共に食べながら、さりげなく声をかけたり、サポートしたりしています。下膳や洗ったお盆を丁寧に拭く等の後片付けも利用者に手伝ってもらいます。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	2日に1回、週3回午後に入浴日を設定しています。利用者の身体状態や認知力の低下に対応するために「安全に、安心して入浴を実施する」ことに重点を置き、職員が利用者と一緒に入ったり、重度化した場合は二人介助でゆったりと入浴を楽しめるよう支援したりしています。入浴をスムーズに促す声かけについて、効果的な言葉を記録し活用しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者のできること、得意なことを把握し、一人ひとり役割を持ちながら過ごせることを支援しています。食事に関わる役割や洗濯物干し、洗濯たたみ、自室の掃除等利用者の力に応じた役割を持ってもらっています。毎朝起床後、屋内散歩に廊下続きの特養の回廊まで往復しながら、ベランダのガーデニングの花を眺めるのを日課に楽しむ方、散歩・買い物・菜園での野菜の収穫等の他、法人の取り組んでいる「認知症予防の学習ツール」に参加している方もいます。ボランティアの支援で、書道を楽しんだり、用意した歌詞カードを見て皆で歌うのも楽しみの一つとなっています。職員が朗読する昔話の本は、利用者からも人気があり喜ばれています。季節毎の行事やお誕生日会も参加した家族共々楽しみます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム周辺には田園風景が広がっており、天候の良い日には近くの神社や池まで散歩します。池に飛来してくる鴨を眺めるのも楽しみです。近隣住民の方と散歩の途中で挨拶を交わし花や野菜をもらうこともあります。月に1回は外食にでかけます。マンツーマンの外出になるので、散歩の機会が少ない場合は特養4階の喫茶室にコーヒーを飲みに行き、また、菜園に出て外気に触れ、稲の成長を見守り季節感を味わうなど、気分転換を図っています。道路を隔てた小学校への参観も楽しみです。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホーム玄関およびエレベーター、総合玄関には鍵を掛けていません。利用者は自由にエレベーターを利用して併設特養やデイサービスを訪問することができます。利用者が外出したい様子があれば一緒に出かけるようにしています。出入り自由なので、無断外出をすることもあり、時間を定めて「所在確認表」にチェックするようにしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防訓練は消防署の指導を受けて年2回実施しています。定期的に災害を想定した避難経路の確認や消火栓の使い方などの確認を行い、利用者と共に避難訓練を実施しています。非常災害マニュアルを作成し、非常時に備え、全職員の連絡網を作っています。災害時に備えて、ホーム独自に食料・飲料水等備蓄品の準備をする予定ですが、現時点ではまだ準備ができていない状況です。	○	災害時の備蓄について、少量でも早急に準備することが求められます。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスについては、併設特養の管理栄養士のアドバイスを受けてカロリー計算をしたバランスの良い献立です。示された献立を参考にホーム独自に旬の食材を使ったメニューに変更する場合があります。食事摂取量は毎回確認し、記録しています。水分摂取についても毎回の食事時やお茶の時間に水分補給に留意し、脱水予防に努めています。水分摂取量も記録しています。食欲のない方には補食を提供するなど配慮しています。リビングの献立表にカロリー計算された数字が毎食、分かりやすく表示しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ホーム玄関脇が応接間になっており、ソファを設置しています。書棚には利用者の行事の写真等のアルバムやみんなで歌う歌詞カードが入っています。廊下には地域のボランティアが描いた絵画が大小飾られて、ギャラリーの雰囲気を出しています。利用者が指導を受けて書いた、秋にちなんだ語句の書道も掲示してあります。生活空間はゆったりと採光も良く、ベランダ越しに田園風景が眺められます。食卓には花を活けてあり心が和めるよう配慮しています。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>各居室には車椅子対応の広いトイレ、洗面所が設置されています。トイレを使用すると廊下に明かりが点灯し、使用状況が居室の外から把握できます。居室には作りつけのカウンターや床頭台を兼ねるチェストが設置しており、持ち込み家具が少なくても使い勝手よくなっています。カウンターにはテレビや家族の写真や手作りの作品、ぬいぐるみなどお気に入りの物を置いています。使いやすい衣類用ハンガーラックやお気に入りのタンスや椅子を持ち込んでいます。各居室の壁面には小学6年生が描いてプレゼントしてくれた利用者の似顔絵が貼ってあり、和やかさが生まれています。カーテンは好みの色を選んで掛けています。本人の好みに合わせて畳敷きの部屋に布団で寝起きする方もいます。自分で掃除できるように、手ぼうきとちりとりを部屋に設置している方もいます。</p>		